

## さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和 8年 2月 1日(日)		
事業名	さわやか青年教室		
趣 旨	知的障害のある青年を対象とし、充実した勤労生活を送るための技能を習得したり、社会生活の質の向上を目指したりする学習支援活動、スポーツ・レクリエーション等の余暇支援活動など、学びの機会となる場を提供することにより、よりよい社会生活・家庭生活を送るために必要とされるルールや技能を身につけ、充実した社会生活を営むことを目指す。		
会 場	当所大研修室		
対 象	18歳以上50歳未満の知的障害のある方		
申込方法	Web又は葉書、来所		
募集定員	40名程度	募集期間	令和 7年 4月 13日から令和 7年 5月25日
参加者数	27名	参加費用	無料
講師 等	千葉県体験活動ボランティア支援活動センター職員 小菅嘉子 氏 上野雅久 氏		
実施内容	<p><b>参加人数:</b>受講生 27 名(11 名欠席)、講師2名、学生ボランティア 2 名が参加。  <b>活動内容:</b>第6回「学習教室(ボランティア活動)」  <b>日 程:</b>10:00~12:00</p> <p>①始めの会(オリエンテーション、講師およびボランティア紹介)          ②学習教室(講義、ベルマークと使用済み切手の仕分け作業)          ③終わりの会(アンケート記入、総括)</p> <p>活動後、講師、ボランティア、職員で反省会</p>		
	 		
	講師の上野氏と小菅氏	積極的な発言	皆真剣でした ヒメコマツの絵
参加者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても楽しかったです。4</li> <li>・ベルマークの分別を行い良い勉強になった。</li> <li>・またベルマークの仕事をやりたい。</li> <li>・ヒメコマツを描いてとても楽しかった。</li> <li>・今日は資源について勉強ができてよかった。</li> <li>・頑張りました。集中してできました。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の先生、ありがとう。歯ブラシのひきとりありがとう。</li> <li>・ものすごくよかったです。</li> <li>・みんなで仲良くできた。楽しく過ごせました。</li> <li>・切る作業がよかったです。</li> <li>・少し難しかった。2</li> <li>・少し小さくてやりにくかった。</li> <li>・書くだけで疲れました。</li> </ul>
<p style="text-align: center;">担当者の 所感</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の趣旨については、ボランティア学習教室を開催することにより、障害者でも行うことができるボランティア、資源のリサイクルの仕組み等について学ぶ機会を提供した。これにより、「社会生活・家庭生活を送るために必要とされるルールや技能を身につけ、充実した社会生活を営むことを目指す」ことへの一助とすることができた。</li> <li>・講座内容については、前半が講師からの説明、後半が資源回収の体験という座学と体験を組み合わせた構成は、受講生の理解を深めるものとなった。</li> <li>・学習内容については、障害者ができるボランティアを紹介することで、受講生の知識を広め、又、ボランティアに関する興味・関心を高めることができた。受講後にベルマーク回収のボランティアをやりたいと申し出る受講生がいたことから今回の講座は有効だと考える。</li> <li>・会場については、大研修室の前半部分を座学、後半部分を仕分け作業等の為グループごととしたが、前半、後半の移動も講師の事前準備のおかげもありスムーズであった。</li> <li>・受講生のアンケートについては、満足度が100%と高い結果が得られた。</li> <li>・支援体制については、班により行う課題が異なっていたため、職員やボランティアが班ごとに臨機応変な対応を求められたが、適宜巡回することで怪我や事故無く、円滑に講座を進めることができた。</li> <li>・支援内容については、職員やボランティアが受講生の様子を観察し、適切に声掛けをしたり、トイレや活動場所の移動補助を行ったりしたことで、受講生は落ち着いて行動することができていた。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>【課題・今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ボランティアについては、回によっては参加人数が少なく、各グループへの十分な割当てができなかった。多くのボランティアを安定的に確保するため、大学との連携をより一層密にし、ボランティアの人数増加に努めていく。</li> <li>・配慮を要する受講生については、サポート体制を整え、また、講師やボランティアとコミュニケーションを図ることで、引き続き円滑な講座運営を行いたい。</li> </ul>